

## 用法・用量変更のお知らせ

合成ペニシリン製剤

# 日本薬局方 注射用ピペラシリンナトリウム

ピペラシリンナトリウム注射用 1g 「日医工」

ピペラシリンナトリウム注射用 2g 「日医工」

製造販売元 日医工株式会社  
富山市総曲輪 1 丁目 6 番 21

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は弊社製品につきまして格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さてこの度、弊社の「ピペラシリンナトリウム注射用 1g 「日医工」 およびピペラシリンナトリウム注射用 2g 「日医工」」（有効成分：ピペラシリンナトリウム）につきまして、用法・用量が変更になりましたので、お知らせ申し上げます。

今後のご使用に際しましては下記内容をご高覧くださいますようお願い申し上げます。

敬白

<新旧対照表> ( : 変更箇所、 : 削除)

新	旧
<p><b>【用法・用量】</b></p> <p>ピペラシリンナトリウムとして、通常、成人には、1 日 2～4g (力価) を 2～4 回に分けて静脈内に投与するが、筋肉内に投与もできる。なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて、1 回 4g (力価) を 1 日 4 回まで増量して静脈内に投与する。</p> <p>通常、小児には、1 日 50～125mg (力価) /kg を 2～4 回に分けて静脈内に投与する。なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて、1 日 300mg (力価) /kg まで増量して 3 回に分けて静脈内に投与する。ただし、1 回投与量の上限は成人における 1 回 4g (力価) を超えないものとする。</p>	<p><b>【用法・用量】</b></p> <p>ピペラシリンナトリウムとして、通常成人には、1 日 2～4g (力価) を 2～4 回に分けて静脈内に投与するが、筋肉内に投与もできる。通常小児には 1 日 50～125mg (力価) /kg を 2～4 回に分けて静脈内に投与する。</p> <p>なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて、成人では 1 日 8g (力価)、小児では 1 日 200 mg (力価) /kg まで増量して静脈内に投与する。</p> <p>静脈内投与に際しては、日局注射用水、日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液に溶解し緩徐に注射する。</p> <p>点滴による静脈内投与に際しては、通常本剤 1～2g (力価) を 100～500mL の補液に加え、1～2 時間で注射する。</p> <p>筋肉内投与に際しては、通常本剤 1g (力価) を日局リドカイン注射液 (0.5w/v%) 3mL に溶解し注射する。</p> <p><b>点滴静注時の溶解にあたっての注意</b> 点滴静注にあたっては、注射用水を使用しないこと (溶液が等張にならないため)。</p>
<p>&lt;用法・用量に関連する使用上の注意&gt; : 現行どおり</p> <p>●投与に際して</p> <ol style="list-style-type: none"><li>静脈内投与に際しては、日局注射用水、日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液に溶解し緩徐に注射する。</li><li>点滴による静脈内投与に際しては、通常、本剤 1～4g (力価) を 100～500mL の補液に溶解し用いる。筋肉内投与に際しては、通常、本剤 1g (力価) を日局リドカイン注射液 (0.5w/v%) 3mL に溶解し注射する。なお、点滴静注にあたっては、注射用水を使用しないこと (溶液が等張にならないため)。</li></ol>	<p>&lt;用法・用量に関連する使用上の注意&gt; : 略</p>

